

令和6年度献血推進計画における県及び血液センターの取組状況

令和6年度献血推進計画	取 組 状 況																																																								
本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）の規定に基づき定める「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針」（平成31年厚生労働省告示第49号）及び「令和6年度の献血の推進に関する計画」（令和6年2月29日厚生労働省告示第46号）に基づき、次のとおりとする。 1 献血目標 令和6年度に目標とする献血量は全血献血で85,900リットル、血小板成分献血で22,656リットル、血漿成分献血で41,590リットルの合計150,146リットルとし、確保すべき献血者数等の目標の内訳を次のとおりとする。 内訳 <table><tr><th colspan="2"></th><th>献血量（L）</th><th>献血者数（人）</th></tr><tr><td rowspan="3">全血献血</td><td>200mL献血</td><td>992</td><td>4,961</td></tr><tr><td>400mL献血</td><td>84,908</td><td>212,269</td></tr><tr><td>小計</td><td>85,900</td><td>217,230</td></tr><tr><td rowspan="3">成分献血</td><td>血小板</td><td>22,656</td><td>41,661</td></tr><tr><td>血 漿</td><td>41,590</td><td>73,551</td></tr><tr><td>小計</td><td>64,246</td><td>115,212</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>150,146</td><td>332,442</td></tr></table>			献血量（L）	献血者数（人）	全血献血	200mL献血	992	4,961	400mL献血	84,908	212,269	小計	85,900	217,230	成分献血	血小板	22,656	41,661	血 漿	41,590	73,551	小計	64,246	115,212	合 計		150,146	332,442	●：県 ○：血液センター ◎：県・血液センター合同、市町村、国 ○ 献血状況（令和6年12月末現在） 全血献血 64,755 L（達成率 75.4%） 血小板成分献血 16,435 L（達成率 72.5%） 血漿成分献血 34,736 L（達成率 83.5%） 内訳 <table><tr><th colspan="2"></th><th>献血量（L）</th><th>献血者数（人）</th></tr><tr><td rowspan="3">全血献血</td><td>200mL献血</td><td>1,621</td><td>8,104</td></tr><tr><td>400mL献血</td><td>63,134</td><td>157,835</td></tr><tr><td>小計</td><td>64,755</td><td>165,939</td></tr><tr><td rowspan="3">成分献血</td><td>血小板</td><td>16,435</td><td>26,765</td></tr><tr><td>血 漿</td><td>34,736</td><td>61,067</td></tr><tr><td>小計</td><td>51,171</td><td>87,832</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>115,926</td><td>253,771</td></tr></table>			献血量（L）	献血者数（人）	全血献血	200mL献血	1,621	8,104	400mL献血	63,134	157,835	小計	64,755	165,939	成分献血	血小板	16,435	26,765	血 漿	34,736	61,067	小計	51,171	87,832	合 計		115,926	253,771
		献血量（L）	献血者数（人）																																																						
全血献血	200mL献血	992	4,961																																																						
	400mL献血	84,908	212,269																																																						
	小計	85,900	217,230																																																						
成分献血	血小板	22,656	41,661																																																						
	血 漿	41,590	73,551																																																						
	小計	64,246	115,212																																																						
合 計		150,146	332,442																																																						
		献血量（L）	献血者数（人）																																																						
全血献血	200mL献血	1,621	8,104																																																						
	400mL献血	63,134	157,835																																																						
	小計	64,755	165,939																																																						
成分献血	血小板	16,435	26,765																																																						
	血 漿	34,736	61,067																																																						
	小計	51,171	87,832																																																						
合 計		115,926	253,771																																																						

2 前項の目標を確保するために必要な措置

(1) 献血に関する普及啓発活動の実施

ア 若年層に対する普及啓発活動の実施

県、市町村、日本赤十字社神奈川県支部（以下「日赤県支部」という。）及び神奈川県赤十字血液センター（以下「血液センター」という。）は連携を図り、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進に取り組む。

(ア) 動画、SNS等を活用した広報

県、市町村及び血液センターは、「献血はいのちを救う」というメッセージを若年層が親しみやすい動画やSNS、ホームページ等の広報手段を用い、気軽に目に触れる機会を増やして発信し、献血への行動につながる効果的な広報を展開する。

【取組内容】

- ・Youtube、デジタルサイネージ、ホームページ等による動画の放映
- ・Facebook、X（旧Twitter）を活用したイベント情報提供

○ 動画

- ・動画「LIFE GOES ON #5 献血がくれた『たからもの』」
（輸血を受けた女性と家族の感謝と願いを周知する内容）
血液センターYouTubeで公開、ホームページ・SNSで周知
高等学校等の献血セミナー・協力団体等での放映



- ・動画「THINK！献血『はじめての献血』」
「THINK！献血『たまには気分を変えて』」
横浜駅西口 YOKOHAMA VISIONでの放映
- ・動画「神奈川県赤十字血液センター創立60周年記念」
（センター開所時から現在までのご協力に対する感謝を伝える動画）
SNSで周知

○ SNSにおける情報発信の強化

- ・X（旧Twitter）やFacebookに加え、若年層に普及しているInstagramでも積極的に投稿し、若年層が献血に親しみを持てるよう取り組んだ。
- ・従来の親しみやすい投稿に加え、輸血を受けた方やその家族からの感謝メッセージを月2回定期的に発信し、献血の必要性を訴えた。
- ・Xの独自アカウントを持っている5つの献血ルームでは、予約状況の情報発信および地域性のある投稿により献血者確保につなげた。

- ・ 高校生に対する啓発資料の配布
- ・ 大学連携ポータルサイトを活用した情報発信

○ 高校献血の実施状況（校内実施分）

年度	実施数	配車台数	献血者数
令和 6 年度 (12月末現在) (今後の予定)	6校 1校	12台 1台	531人 41人
令和 5 年度	7校	14台	626人
令和 4 年度	7校	17.0台	657人

○ 高校生への啓発チラシ配布

- ・ 県立、私立高校の3年生及び横浜市立、横須賀市立高校の全学年生
計228校の約67,248人に

啓発チラシを配布（11月）

12月末現在、478名が、献血ルームでの献血に協力



● 大学連携ポータルサイトを活用した広報

若い世代へ向けた献血協力の呼びかけ、及び動画「LIFE GOES ON #5 献血がくれた『たからもの』」の紹介（R7.3月予定）

イ 幼少期の子どもとその保護者を対象とした普及啓発活動の実施 県及び血液センターは、子どもの頃から献血に触れ、献血の大切さを知ってもらうため、親子で一緒に献血に触れ合えるよう、血液センター等を活用した啓発を行う。 また、血液センターは、小さな子どもがいても献血に協力したいというニーズに応えるための事業を実施し、県はそうした取組に協力する。 【取組内容】 ・キッズ献血の実施 ・「お子様見守りサービス」の実施及び拡充、広報	○キッズ献血の実施 8月17日（土）トレッサ横浜 子ども529名、保護者704名 計1233名参加 ・献血疑似体験 ・献血の大切さを学べるパネルの展示 ・医師や看護師、救護服の衣装を着て写真撮影 ・献血運搬車の展示・乗車体験 ・小学生（未就学児含む）対象に実施 ・献血も同時開催 ※県職員2名が応援スタッフとしてイベント運営に従事 ○ miniキッズ献血の実施 8月14日（木）イオンモール大和 66名参加（お仕事体験会の名目で実施） ・血管探しゲーム、疑似献血体験、疑似血液供給体験、供給車展示 ・けんけつちゃんとの写真撮影（子供用の看護師服や災害救護服着用） ・中学生以下を対象に実施 ・献血も同時開催 ・イオンモール大和店が開催するお仕事体験イベントに合わせて、テナント各社もお仕事体験を実施。 ・昨年と比べると来場数は少なかったが、同時開催の献血は実績が向上（37名→52名）今年度は採血車が見える位置で実施。 ●県のたより令和6年7月号 「献血をもっと身近に多くの方に」 ・「お子様見守りサービス」及び「キッズ献血」の周知・広報 ・「愛の血液助け合い運動」期間に合わせた夏季献血協力の呼びかけ ●「キッズ献血」について「かながわ子どもワクワク体験プロジェクト」の社会体験ジャンルのイベントとして、県ホームページ上で周知
--	--

ウ 神奈川県学生献血推進連盟との協力活動

県及び血液センターは、献血推進活動を行うボランティア組織である神奈川県学生献血推進連盟と協力し、若年層に献血の大切さを積極的に周知する。

【取組内容】

- ・キッズ献血（献血疑似体験イベント）への運営協力依頼
- ・ハロウィン、クリスマス時期の献血会場等での献血の呼びかけを依頼

- 「キッズ献血」について、県公式X（旧Twitter）やミビョーマン（健康増進課公式Xアカウント）と連携して周知を実施

○ 神奈川県学生献血推進連盟による献血推進活動

活動実績 イベント数 10回 、延べ人数 69人

※献血会場での呼びかけ・イベント協力・血液センター施設見学



学生が力を合わせて献血PR

左上 8/7川崎フロンターレ・右上 8/17キッズ献血

左下 10/27ジョイナス・下中 12/8イオンモール大和・右下 12/25こども医療センター

(ウ) 職員献血の実施

県及び市町村は、各職員に対して、献血への積極的な協力を呼びかけるとともに、献血しやすい環境作りを推進する。

【取組内容】

- ・ 職員献血の実施

オ 複数回献血の推進

血液センターは、複数回献血者の継続的な協力が得られるよう、献血Web会員サービス『ラブラッド』のWeb会員の増強を図り、Webサービスを用いた依頼要請により予約献血など効果的な取り組みを行う。

県は、複数回献血につながるような取り組みを関係機関と連携して行う。

◎職員献血の実施

・県職員献血の実施

令和6年5月23日	受付者数	63人	献血者数	58人
令和6年5月24日	受付者数	47人	献血者数	43人
令和6年8月21日	受付者数	58人	献血者数	50人
令和6年8月26日	受付者数	43人	献血者数	37人
令和7年1月15日～16日	受付者数	93人	献血者数	85人

・市区町村の実績（合算）

令和6年4月1日～12月31日	受付者数	4,611人	献血者数	3,951人
-----------------	------	--------	------	--------

●職員献血の実施について、県公式X（旧Twitter）やミビョーマン（健康増進課公式X）と連携して情報提供

○献血Web会員サービス「ラブラッド」

令和4年9月、（献血協力者）へのサービス向上を目的として、「ラブラッドアプリ」を導入。

令和6年12月末現在		（令和5年12月末時点）
・Web会員数	397,540人	（370,381人）
・成分献血予約率	95.05 %	（93.6%）

●複数回献血と薬局の健康相談の普及を促進するための啓発イベント（けんけつ健康相談薬局事業）を開催

実施主体：神奈川県赤十字血液センター、海老名献血ルーム、
神奈川県薬剤師会、海老名市薬剤師会、厚木市薬剤師会、
大和・綾瀬薬剤師会、神奈川県

協力薬局：計115店舗

カ 献血推進キャンペーン等の実施 (ア) 献血推進キャンペーン 県、市町村及び血液センターは、国が全国的に実施する「愛の血液助け合い運動」（7月）、「はたちの献血キャンペーン」（1～2月）において、献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかける。 【取組内容】 ・ポスター等の啓発資材を関係機関等へ配布 (イ) 効果的な広報手段を活用した取組 県、市町村及び血液センターは、様々な広報媒体の活用やイベントの実施等を通じて、血液製剤の重要性、献血をとりまく諸課題を踏まえた現状、血液製剤の利用実態等に関する情報を提供するなど、県民に対して献血への理解と協力を呼びかける。	● ポスターの配布 ・愛の血液助け合い運動 7月1日～31日 1,640枚 ・はたちの献血キャンペーン 令和6年1月1日～2月28日 1,640枚 ※キャンペーンごとに県及び血液センターのホームページによる広報 ●横浜エリア28カ所のデジタルサイネージによるキャンペーン広告の掲出（再掲） ・令和6年12月30日～令和7年1月12日、1月13日～26日、2月10日～23日（「はたちの献血」キャンペーンの周知及び周辺献血ルームの案内） ●小田原駅東西自由通路デジタルサイネージによるキャンペーン広告の掲出（再掲） ・令和7年1月1日～1月31日（はたちの献血キャンペーン） ●『薬壺（神奈川県薬剤師会会誌）』（再掲） ・令和6年 7・8月号 愛の血液助け合い運動 ・令和7年 1・2月号 はたちの献血キャンペーン ● 毎日新聞 特集記事「ささえあって」令和6年4月27日 ○ 血液センターFacebookとX（旧Twitter）を活用した情報提供 ○愛の献血助け合い運動 ポスター掲示協力状況 京浜急行電鉄株式会社・江ノ島電鉄株式会社・湘南モノレール株式会社・株
---	---

	株式会社小田急箱根・横浜市立みなと赤十字病院・秦野赤十字病院・相模原赤十字病院・東海大学病院・北里大学病院・藤沢市民病院・海老名総合病院・湘南藤沢徳洲会病院・総合病院伊勢原協同病院・平塚共済病院・湘南鎌倉総合病院・聖マリアンナ医科大学病院・横浜市立大学附属市民総合医療センター・川崎幸病院・横浜市立大学附属病院・横浜市立市民病院・横須賀共済病院・済生会横浜市東部病院・昭和大学藤が丘病院・横浜南共済病院・済生会横浜市南部病院・横浜労災病院・新百合ヶ丘総合病院・神奈川県立がんセンター・昭和大学横浜市北部病院・関東労災病院・国立病院機構 横浜医療センター・日本医科大学武蔵小杉病院・虎の門病院分院・帝京大学医学部付属溝口病院 ○はたちの献血キャンペーン 【CM放送協力状況】 1. 一般社団法人日本民間放送連盟加盟局 (1) テレビ 株式会社テレビ神奈川 (2) ラジオ 横浜エフエム放送株式会社 株式会社アール・エフ・ラジオ日本 2. 一般社団法人日本コミュニティ放送協会加盟局 逗子・葉山コミュニティ放送株式会社・株式会社湘南平塚コミュニティ放送・横須賀エフエム放送株式会社・鎌倉エフエム放送株式会社・藤沢エフエム放送株式会社・かわさき市民放送株式会社・株式会社エフエムさがみ・大和ラジオ放送株式会社・横浜コミュニティ放送株式会社・FM小田原株式会社・株式会社エフエム戸塚・学校法人国際学園・株式会社横浜マリンエフエム
--	---

(ウ) 献血協力企業・団体への表彰 県及び日赤県支部は、長年にわたり献血に協力していただいている企業・団体に対して表彰を行う。 【取組内容】 ・神奈川県知事賞 ・県保健福祉事務所長賞 ・日赤県支部長表彰	【ポスター掲示協力状況】 (1) 一般社団法人日本民営鉄道協会加盟会社、 湘南モノレール株式会社 箱根登山鉄道株式会社 江ノ島電鉄株式会社 京浜急行電鉄株式会社 (2) その他の企業・団体 東海大学病院・北里大学病院・藤沢市民病院・海老名総合病院・湘南藤沢徳洲会病院・相模原協同病院・総合病院伊勢原協同病院・平塚共済病院・湘南鎌倉総合病院・聖マリアンナ医科大学病院・市大センター病院・（石心会）川崎幸病院・横浜市立大学附属病院・横浜市立市民病院・横須賀共済病院・済生会横浜市東部病院・昭和大学藤が丘病院・横浜南共済病院・済生会横浜市南部病院横浜市立みなと赤十字病院・横浜労災病院・新百合ヶ丘総合病院・県立がんセンター・昭和大学横浜市北部病院・関東労災病院・聖マリアンナ医大西部病院、国立病院機構横浜医療センター・日本医科大学武蔵小杉病院・虎の門病院分院・帝京大学医学部付属溝口病院・株式会社テレビ神奈川 ● 献血推進功労者知事表彰 知事表彰状 20団体 ※表彰式 令和6年12月9日実施 ● 保健福祉事務所長表彰 保健福祉事務所長表彰状 14団体
--	--

(2) 献血推進協議会の開催 県は、献血や血液製剤に関する県民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、協議会を開催する。また、献血推進計画の策定、献血や血液製剤に関する教育、啓発の検討等について、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等との連携強化を図る。 (3) 献血の推進に際し、考慮すべき事項 ア 献血会場の提供 県及び市町村は、移動採血車による日程を血液センターと協議し、献血会場として公共施設を提供するなど、献血の受入れが円滑に行われるよう必要な措置を講じる。 イ 血液製剤の安全性の確保 県、市町村及び血液センターは、献血受付時の本人確認や問診の徹底及びＨＩＶ等の感染症の検査を目的とした献血の防止について、周知を図り、医療機関等での検査の受診を促す。 ウ 血液製剤の在庫水準の把握と不足時の対応	○ 日赤表彰71団体 ◎ 厚生労働省大臣表彰状・感謝状（令和6年7月18日付表彰） 厚生労働大臣表彰状 3団体 厚生労働大臣感謝状 1団体 ※伝達式 令和6年8月1日実施 ● 令和6年2月26日通知（書面開催） 議事 (1) 報告事項 令和6年度献血事業 (2) 協議事項 令和7年度神奈川県献血推進計画（案） ◎ 県内各市町村 ホームページなどで、献血実施日、場所を事前に周知 啓発物品とリーフレット配布、併せて献血協力の呼びかけ依頼（2月） ◎ 血液在庫量の情報共有 「緊急献血のお願い」のＨＰ掲載実績なし
--	--

県及び血液センターは、血液製剤の在庫水準を随時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合は、供給に支障を及ぼす緊急性を勘案し、各市町村への緊急献血の呼びかけなど必要な措置を講ずる。 エ 献血ルームの広報 県及び血液センターは、県民が献血ルームを利用しやすいように、SNSやホームページ等の様々な広報媒体の活用やリーフレットの配布等によりPRを積極的に行う。 オ 献血関係機関会議の開催 県は、より効果的に献血事業の推進が図れるよう、必要に応じて関係機関等と会議を開催し、献血推進に関する課題等について検討するとともに、情報交換の場として活用する。 3 災害時における血液確保等について (1) 神奈川県地域防災計画に定める措置 県及び日赤県支部は、「災害用血液製剤の確保に関する協定書」に基づき、災害時において血液が円滑に供給されるよう「神奈川県地域防災計画」に定める所要の措置を講ずる。また、血液センターは災害時等における献血の受入れ体制を整備するとともに、県及び市町村と連携して広域的な血液の確保に努める。 (2) 新興・再興感染症まん延下の対応 血液センターは、新興・再興感染症まん延下においても、医療需要に応じた	◎県ホームページ、血液センター X (旧Twitter)、Facebook、Instagram を活用した情報提供【再掲】 ○ 災害対応訓練における血液製剤搬送訓練の実施（令和6年9月3日） ○ 関東甲信越ブロック血液センター合同災害対応訓練の実施（令和7年2月3日） ○ 災害時参集訓練の実施（令和7年1月27日～2月7日） ○ 予約献血の推進 安心してご協力いただき、混雑による密を回避するため、「予約献血」
--	--

血液製剤の安定供給を図るため、安心・安全な献血環境の保持と献血者への感染防止を図るとともに、様々な広報媒体を活用して献血への協力を呼びかける。また、県及び市町村は、血液センターの取組を支援する。	を継続して推進。 血液センターHP、SNS、献血Web会員サービス「ラブラッド」を活用した献血ご協力の呼びかけ。
--	---